

工場の「工程別」シリーズ特集

大規模製造業のAI活用成果の出し方

「設備保全」「サプライチェーン」「品質管理」

お申し込み締切

設備保全：2026年10月9日（金）

サプライチェーン：2026年11月6日（金）

品質管理：2026年12月4日（金）

モノづくり領域のAI活用で成果を出すには

生成AIの登場を契機に、業務におけるAI活用が急速に広がっており、国内製造業も例外ではありません。一方、現在の生成AI活用は、情報検索や文書作成、会議の議事録作成といった間接業務が中心です。生成AIやAIエージェントを設計、生産、品質管理、設備保全などのモノづくりに直接関わる業務へ組み込み、具体的な成果につなげている企業は、まだ一部にとどまっています。それ以前に、紙や表計算ソフトによる管理、担当者の経験に依存した判断など、アナログで属人的な業務も残されています。

弊社の読者調査でもAIエージェントを「活用している」「POC／試験導入中」と回答した企業の多くを、大規模製造業が占めています。しかし、こうした先行企業においても、費用対効果の改善や業務課題の解決など、導入時に期待した成果を十分に実感できていないケースが少なくありません。AIを「試す」段階から、現場の業務に定着させ、継続的な成果を生み出す段階へ移行できるかが課題となっています。

そこで本シリーズでは、大規模製造業を主な対象として、設計／開発、生産技術、製造、品質管理、設備保全、サプライチェーンなど、工程・業務ごとにAI活用の可能性を掘り下げます。それぞれの工程／業務でAIによって何ができるのか、どのような課題を、どの程度解決できるのかを、具体的なユースケースや導入効果とともに紹介します。関連する技術トレンドに加え、データ整備、既存システムとの連携、セキュリティ、費用対効果の評価、人材や組織体制など、実装に向けた論点も解説します。さらに、小規模な取り組みから始めて成果を検証し、全社や複数拠点へ展開するための考え方や先進事例を、製造現場を熟知するMONOist編集部ならではの視点で提示します。



MONOist 編集長
三島 一孝

設備保全

記事タイトル案：

「壊れてから直す」から脱却へ、AIで変わる設備保全の現在地

キーワード：設備保全ソリューション×AIエージェント・生成AI、予兆保全 など

サプライチェーン

記事タイトル案：

リスク検知から対応判断まで、AIエージェントで変わるサプライチェーン

キーワード：SCM×AIエージェント・生成AI、生産管理・需要予測・在庫管理システム など

品質管理

記事タイトル案：

不良を見つけるAIから原因を探るAIへ、進化する品質管理の現在地

キーワード：品質管理ソリューション×AIエージェント・生成AI、AI外観検査 など



MONOist編集特集「AIが起こす製造変革」ページから誘導

- ✓ ご協賛社様のロゴを掲載
- ✓ 編集部制作のコンテンツの誘導
- ✓ ご協賛様支給コンテンツの誘導掲載

※特集ページへの掲載期間は1カ月間になります

「AIが起こす製造変革」ページ掲載記事例

AIエージェントを「既に活用」は11%、今後の期待は「設計／開発」用途に集中
<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2604/23/news003.html>

マツダが挑む設備保全DX、AIやIoTで自動車工場内火力発電所の現地点検ゼロへ
<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2607/28/news001.html>

カルビーが挑むジャガイモ収量の限界——自社開発AIでサプライチェーン最適化
<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2608/21/news046.html>

全体スケジュール

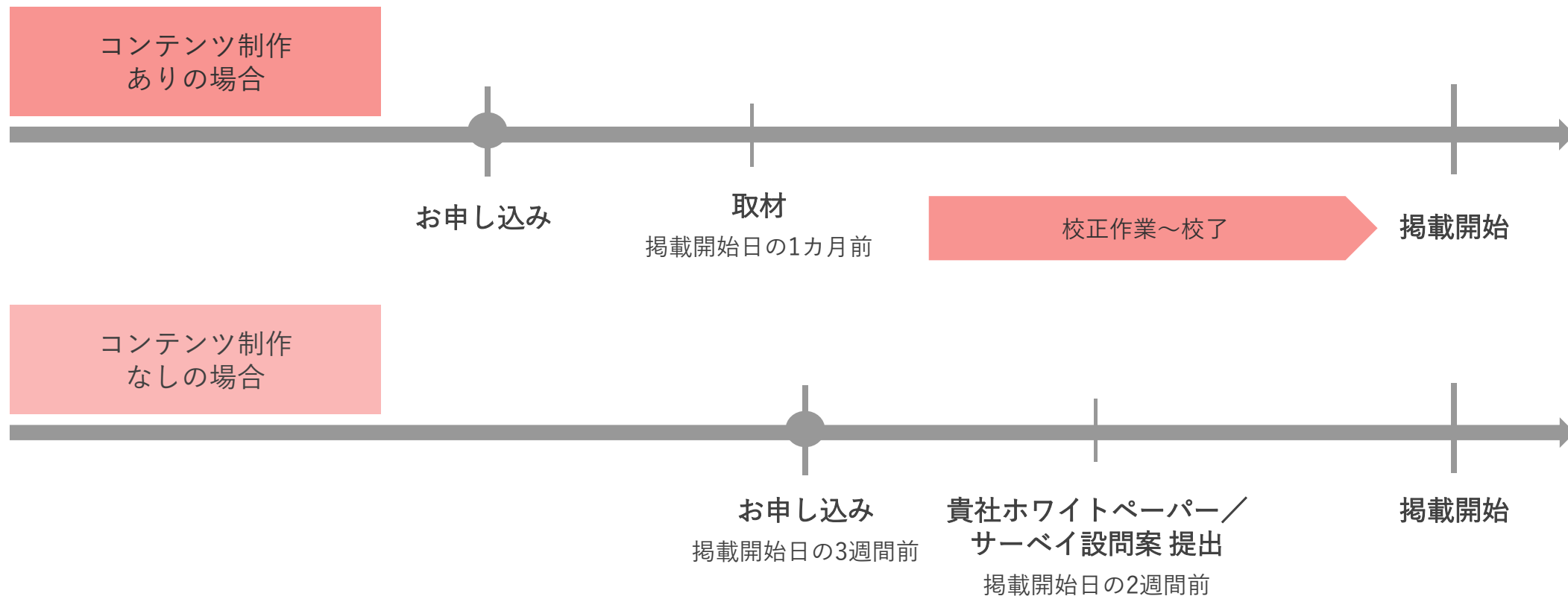
各特集2カ月の企画展開予定

特集テーマ	11月	12月	2027年1月	2月	3月
設備保全	 お申込締切：10月9日 特集・リード獲得想定期間：11月24日～1月29日				
サプライチェーン	 お申込締切：11月6日 特集・リード獲得想定期間：12月21日～2月22日				
品質管理	 お申込締切：12月4日 特集・リード獲得想定期間：1月25～3月25日				

リード獲得期間は想定で2カ月を超える場合もありますので、予めご了承ください

実施までのコンテンツ準備・スケジュール

コンテンツ制作の有無によって、掲載までのスケジュールが異なるのでご注意ください。



※上記は一例です。掲載までのスケジュールはお申し込み後、別途ご案内いたしますので、各営業担当にお問い合わせください。

※上記は標準時のスケジュールとなり、校正の回数が増える場合や特別対応の場合、上記と異なる場合もございます

※コンテンツの準備ができ次第、随時特集ページに掲載いたします

料金プラン案

製造業×500名以上 限定でリードをご提供

下記料金表は1つのテーマでの協賛プランになります。複数テーマにご協賛いただくこともできます
★複数テーマご協賛の場合、2テーマ協賛で5%、3テーマ協賛で10%総額からお値引きさせていただきます
例.設備保全にゴールドプラン、品質管理にシルバープランでご協賛の場合
設備保全180万円+品質管理100万円 計280万円から5%のお値引きで266万円でご提供

	プラチナプラン ¥2,400,000 200件保証	ゴールドプラン ¥1,500,000 150件保証	シルバープラン ¥1,000,000 80件保証
プレミアムコンテンツ閲覧者 ・協賛全社に同一リードを提供します ・個別パーミッション設定できません	80件保証	80件保証	80件保証
貴社ご支給コンテンツ	120件保証	70件保証	—
タイアップ記事制作	1本	—	—
ホワイトペーパーご支給 ※お手持ちのコンテンツをご用意ください	2本	2本	—

※料金は税別、グロスです

※企画実施となった場合、申込締切日以降も販売を延長する可能性があります。ご発注後、協賛企業が追加となる場合がございますので、予めご了承ください

※プレミアムコンテンツ閲覧者リード、貴社コンテンツ閲覧者リード間の重複はありません

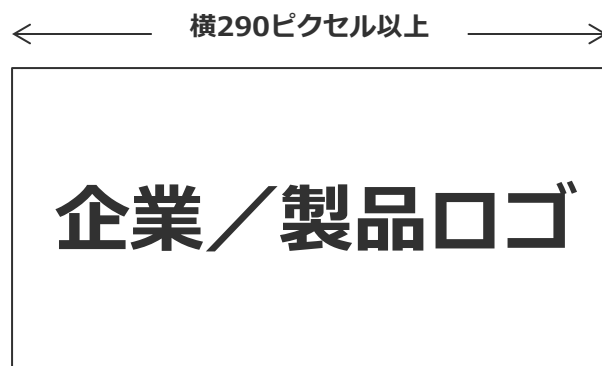
※プランのカスタマイズも可能です。担当営業までご相談ください

※ご協賛状況により、実施見合わせとなる可能性がありますので、予めご了承ください

ロゴ掲載について

本特集にご協賛いただくと 特集ページに「企業ロゴ」または「製品ロゴ」を**1点**、掲載いただけます。

他の企業／製品ロゴとのバランスを見て適宜加工させていただく場合がございます。
各社ロゴ規定に則った範囲でとなりますが、予めご了承のほどお願いいたします。



ファイル容量：**1MB未満**
ファイル形式：**jpg/GIF/PNG**

ロゴの画像データは、リンク先のURLと合わせて、特集開始の**2週間前までに** 営業担当にご送付ください



制作物仕様・オプション

編集タイアップ仕様詳細

編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事を制作（二次利用も可能）

- 編集タイアップについて
 - 編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事広告です
 - 冒頭部分はだれでも閲覧でき、「続きを読む」でリードを獲得します
- コンテンツ仕様
 - ページ数：1html
 - 文字数：4,000文字程度（うち、500文字程度が公開ページ掲載分）
 - 図版点数：3点まで（写真／イメージ図版主体）
 - 企画協力：あり
 - 取材有無：あり
- 備考
 - 取材から掲載までの期間は約17営業日となります
 - 原稿の校正はテキスト原稿、HTMLの各1回ずつを想定しており、校正の回数に応じて、公開までの日数は適宜変動いたします
 - 記事広告内に掲載するイメージ図版は貴社にてご用意ください
 - 終了後も一部を除きコンテンツは掲載され続けます
 - タイアップ記事のPV、UBのレポートはございません
 - 遠方での取材や有識者のアサイン、特別な制作費（イラストなど）が発生する場合は、別途追加費用を申し受けます
 - 広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、以下費用が発生します
 - 初校の出し直し：¥300,000、念校以降の修正：¥100,000
- 二次利用について
 - 制作した記事広告の著作権は、当社および制作スタッフ（ライター、カメラマンなど）に帰属します
 - 本企画にて制作した記事広告は、改変がなければ無償で二次利用していただくことが可能です（ウェブ上での利用に限定、要出典表記）
 - 印刷物でのご利用は二次利用費が発生いたしますので、利用をご希望される場合は、担当営業までお問い合わせください
- オプション：カスタム記事パンフレット制作
 - 制作した編集タイアップ記事をPDFや印刷物でご利用いただける有料オプションもございます。詳細は担当営業までお問い合わせください

※二次利用には一部条件がございます

ITmedia

© 2020年06月20日 10時00分 公開

ニューノーマル時代のVPN課題を解決

堅牢性と利便性を両立する VPN強制と“インターネットブレイクアウト”とは？

コロナ禍のテレワークで利用者やクラウドサービスが増え、VPNの導入（ひびく）やVPN接続を徹底できないなど、VPN導入の課題が浮き彫りとなった。セキュリティと利便性の両立を実現する解決策を紹介する。

[PR/キーマンズネット]

端末のVPN接続をソフトウェアで「強制」する

「社内に端末があるとき『業務に必要なWebサイトにはアクセスできない』といったグレートウェイ対策を実施していれば、データの流出や不正なマルウェアのダウンロードといったリスクを抑えることができます。ですが、社内に端末を持ち出して、直接インターネットにアクセスしてしまうと、社内ネットワークで実施しているグレートウェイ対策が一切効かない状態となり、統制もできません。これは企業にとって大きな問題です」。こう指摘するのは、アシストの技術者、富士本 博紀氏（アクセスインフラ技術統括部）だ。

こうした問題を解決するのが、日立ソリューションズが開発した情報セキュリティ対策ソフトウェア「秘文シリーズ」の一つ、「秘文 Device Control」だ。端末のインターネット接続時に検出されると想定される秘密のセキュリティリスクを最小化できる。各端末にインストールしておけば、社内の業務サーバを利用する際の通信をVPNに接続させるよう「強制」可能で、VPN経由のインターネットアクセスを促進するソフトウェアだ。

富士本氏は次のように力を込める。「秘文 Device Controlの大きなメリットは、利用者が全く意識しなくても使えるところだ。直接インターネットに接続する画面を裏で禁止しているだけなので、利用者は意識通りVPNに接続して業務を遂行すればよいということです。セキュリティ製品にもかわらぬ利便性を兼ね備えているのは、とても素晴らしい点です」。

VPN経由の接続を強制（社外利用）

接続先チェック機能の確認の結果から、社内ネットワークを通常接続、社外ならVPN接続の通信のみ許可するようにします。

図1 VPN接続強制機能とは（出典：アシスト）

どのように端末の社外利用を判定するのか

社外には、自宅Wi-Fiだけでなく喫茶店や駅の公衆無線LANなどさまざまなアクセスポイントがある。秘文 Device Controlは端末が社外からの利用であると判定しVPN接続を強制するというが、どのように社内/社外のネットワークを判定するのだろうか。

その方法は二重の仕組みとなっている。秘文 Device Controlは、接続したアクセスポイントのSSID名が、あらかじめ指定した社内のSSID名と異なる場合に社外と判定し、VPN接続を強制する。しかしこの方法だけでは、悪意を持った従業員が、社内アクセスポイントと同一SSID名を偽装できてしまう恐れがある。このため社内にあるサーバに対してping通信（応答の確認）を実行し、応答が正常に返ってくることで初めて社内ネットワークと判定する。

「社内ネットワークの判定にIPアドレスを使っている同様のソフトは多いが、『SSID名+ping』でより厳密に確認できることが秘文 Device Controlの特長です」と富士本氏は強調する。

ホワイトペーパー 仕様詳細

- ホワイトペーパーについて
 - 当社パートナーの編集プロダクションが取材・制作するPDFコンテンツです
 - ホワイトペーパーダウンロードセンターに掲載してリードを獲得します
 - コンテンツ内容は「製品／サービス紹介」「導入事例」「セミナーレポート」からいずれかお選びください

- コンテンツ仕様
 - ページ数：2ページ／4ページ
 - 文字数：約2,000文字／約4,000文字
 - 図版点数：2点まで／4点まで
 - 企画協力：なし（貴社ご記入のヒアリングシートをもとに取材）
 - 取材有無：あり
 - デザイン／ファイル形式：指定フォーマット（右図）、PDF（Web解像度）

- コンテンツ内容
 - セミナーレポートの取材は2セッションまでとなります
 - 製品／サービス解説、導入事例は、それぞれ下記の4章構成となります

製品／サービス解説

1. 市場背景の解説
2. 課題の提示
3. 解決策の提示
4. 製品情報の紹介

導入事例

1. 導入企業紹介
2. 導入企業が抱えていた課題
3. 選定理由、具体的な課題解決方法
4. 導入によって得られた成果

- 備考
 - ホワイトペーパーの取材、制作進行は編集プロダクションに委託しています
 - 取材から掲載までの期間は約23～25営業日となります
 - ホワイトペーパーに掲載するイメージ図版、写真は貴社にてご用意ください
 - リード収集終了後もコンテンツは掲載され続けます
 - 遠方取材となる場合は、交通費ならびに遠方取材費を申し受けます（Web会議は追加費用なし）
 - 製品／サービス解説、導入事例、セミナーレポート以外の企画をご希望の際はご相談ください
 - 広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、以下費用が発生します
 - 初校の出し直し：¥100,000、念校以降の修正：¥50,000

- 二次利用について
 - 制作したホワイトペーパーは、ウェブ、印刷物問わず無償で二次利用していただけます（当社以外のメディアへの掲載も可能です）

制作料金

2ページ：¥200,000～

リードを含めた最低実施料金：¥600,000～

4ページ：¥400,000～

リードを含めた最低実施料金：¥800,000～

アイティメディア株式会社

IT管理者目線で比べる DaaS vs. VDI、選択の基準とは？ 管理者を悩ませる2つの仮想デスクトップ、選択の基準とは

DaaSとVDIは共通点も相違点も多く、どちらを優先かを決めるのは難しい。管理性、カスタマイズ性、価格、稼働性など、IT管理者が実際に当たって確認すべきポイントを解説する。

DaaS vs. VDI

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

1 IT 業界調査会社「IDC」DaaS vs. VDI、選択の基準とは？



■お問い合わせ

アイティメディア株式会社 営業本部
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12
紀尾井町ビル 13階

<https://promotion.itmedia.co.jp/contact>